



# 「銀河通信」35周年を お祝いする会



とき 2023年5月20日(土) 14:00~17:00

ところ カトリックセンター 1階会議室 (北1東6)



# プログラム

1. 実行委員長挨拶……………小野有五さん

2. 乾杯……………芳賀孝郎さん

3. 祝宴

☆「銀河通信」35周年のあゆみ

インタビュー……………小野有五さん

☆お祝いのスピーチ

……………松浦幸子さん（クッキングハウス代表）

……………寺島一男さん（大雪と石狩の自然を守る会代表）

……………貞兼綾子さん（ランタン・プラン代表；チベット研究者）

……………塩川哲男さん（反核医師の会）

……………宮本紀子さん（長年の友人）

……………高橋明子さん（小樽市）

☆みんなで歌いましょう……………藤田春美さん

☆みんなでポロ・リムセ（輪踊）……………原田公久枝さん

4. 花束贈呈……………齊木登茂子さん

5. 閉会の言葉……………福原正和さん

6. 謝辞……………樋口みな子さん

7. 記念写真撮影



※都合により変更する場合がありますことをご了承ください。



「銀河通信」35周年をお祝いする会では、樋口みな子さんに、この35年間の歩みと、みな子さんの思いを語っていただこうと、過去の「銀河通信」や、そのもとになった写真などをパワーポイントで映しながら、小野がインタビューすることになりました。

全部で40枚にもなりますので、葉には、その中から、もっとも重要なものを選んで載せることにいたします。タイトルの背景は、みな子さんと「銀河通信」を蔭で支えた夫、澄生さん撮影のオリオンの銀河の写真です。



# 「銀河通信」と樋口みな子さん 35年間のまとめ

1975年 旭川の水銀汚染

・大雪の自然保護運動  
に関わる

1988年 高木仁三郎さん  
の出前講座に参加

1988年 「銀河通信」発刊

息子 2歳

「家庭新聞」として→自然保護を発信

1993年 50号

1990年 機関誌コンクール  
で優秀賞を受賞

1997年

家族でNZ  
に旅行

1999年 100号

高山植物  
盗掘防止運動

北大ハルニレ  
保全運動

2001年

日本  
山岳会に  
入る

ベアテさん取材



「童女のような人—石牟礼道子さん」

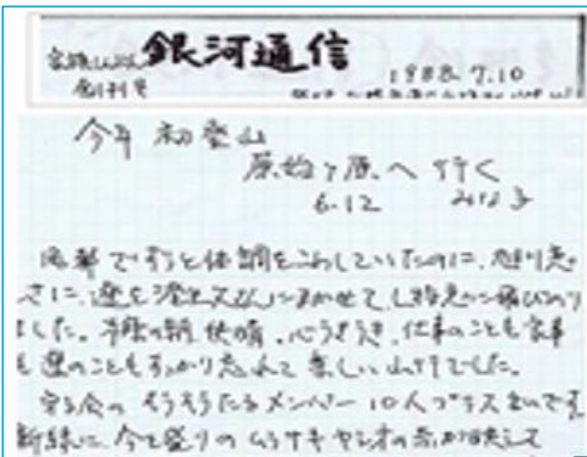
藤田（樋口）みな子

以前から一度はお目にかかりたい、お話したいと思っていた石牟礼道子さんに、写真展がきっかけで思いもよらずお会いすることができた。私も小さいけれど、石牟礼さんは、もっと小柄で華奢な人だった。「樺の海の記」のおかっぱの童女がそのまま立ち現れた風情であった。字を追う時、大きな虫眼鏡を使われた。そのユーモラスなしぐさに初対面の緊張がほぐれた。

記者室では一つ一つの質問に飾らずにいていねいに答えられていた。詩人でもある石牟礼さんは「草や木に対して敬虔に祈るといことが好きですね」とおっしゃった。「祈りと詩は合体だ」とも。石牟礼さんが講演でうたうように語る水俣の風土というものが、いかに豊饒な世界であったかがまぶたに浮かぶようだった。たとえばこんな風に。浜にゆくとアサリと一緒にアオサやフノリや巻貝がやってくる」「自分の命を養ってくれる生きものたちと遊ばせてもらって、いい景色を見て、春の磯の香りをすう。不知火海は自分の池のようなものだった」と。石牟礼さんの魂は深い所で水俣という風土の中で培われたものであろう。それなのに、いつの間にか水銀が水俣の風土と人々を侵していったのである。その無念さははかりしれぬものがあつただろう。石牟礼さんがただ「つらいことだ」とおっしゃった時、その言葉の重みをこれほどずしんと感じたことはない。水俣病と関わって20年になるという。その強靱な精神はどこから生まれたのだろう。

石牟礼さんはあくまで謙虚に「水俣で生きてゆくしかないのだから」とさりげなくおっしゃった。童女のような澄んだ目だった。心にしみ入るようなお話だった。こんなに真にやさしい人を私は知らない。帰り際、私たちに向かって深々と頭を下げられた。胸の底かジーンとした。「いつまでもお元気で……」言葉には出せず心のなかで叫んだ。

ユージン・スミスアイリーン・スミス写真展「水俣」報告集（1979）から



(左上) 創刊号(1988)  
(右) 3号(1989)に澄生さんが描いたスケッチ  
(左)30号(1991)朝日新聞



2003年  
知里幸恵  
生誕百年

2008年  
150号  
ヒマラヤ  
環境調査

2011年 泊原発訴訟  
原告となる  
2013年 ハンセン病  
問題に関わり台湾へ

2017年 200号  
2018年 30周年  
北海道新聞  
「ひと」欄に掲載  
札幌地裁で  
意見陳述  
2016年  
水俣訪問  
石牟礼さん  
葬儀に参列

2023年  
35周年

2021年5月  
澄生さん、大手術  
を前に受洗  
2021年12月 受洗  
2022年 澄生さん  
再度の大手術  
→回復 退院して  
自宅で療養

中本ムツ子  
さん取材

2004年札幌  
水俣展

手書きから、  
パソコン入力へ

2014年アウシュヴィッツ  
に行き、衝撃を受ける、  
コルベ神父の犠牲的行為  
に感動する

2015年

友人、小野妙子さんの葬儀、  
初めてカトリックにふれる



## 澄生さんの発病・2回の手術 2020年 ……大手術 2021年

不安や眠れぬ苦しみ、看護師や他のスタッフ、執刀して下さる先生に囲まれながらも、手術を受ける私はしょせん一人の人間、多くの不安を抱えることは否めません。

期せずして二人の方から同じようなメールを頂きました。みなちゃんの友人、科学者の小野有五先生からは、「大変な大手術なのですね。成功をお祈りしています。『神さまには、望むことは何でも、お祈りしなさい、そうすれば、人智を超えた神さまの平和が、あなたの心と考えを守るでしょう。』と聖書はいうのです。不思議な言葉ですが、ほんとうに深い真理を感じます。どうか神さまの恵みが、澄生さんとみな子さんの上にありますよう、とお祈りしております。神さまが与えてくださるのは、人間の勝手な思い、願いを超えた『平和』なのです。しかもそれは、ただ与えられるのではなく、『それが、あなたの心と考えを守ってくれる平和』だ、というのです。」

私の古くからの友人からは、「樋口君が自分で思い描いている事と、自分に起きている身体の状態が、相反する現状に非常に不安で辛い気持ちでいると思いますが、これを乗り越えていくのも樋口君の人生なのだと思います。慰めることもできませんが、でも、「神さまは乗り越えられない試練は与えない」という言葉があります。私は神さまを信じているわけではありませんが、この言葉はその通りだと思っています。」

特に手術は、脳の真下には頸動脈が走っていて、やはり気を付けなければならない手術であるようで、手術前は眠れぬ夜となりました。

自然と不安な思考になっていきました。そんなとき、お二人のメールを思い出し、「静かに明日を信じて待つ」という気持ちになれたのは大きかったと思います。

2つの手術を終えて、生きていることのありがたさを噛みしめています。

リウマチの痛みは続いています。また天体観測ができる日を楽しみにしています。

是非、我が家の天文台にお越しください。(2020. 8月 樋口 澄生)

みな子さんは、澄生さんと2021年5月に洗礼を受ける予定だったが、もっと勉強が必要と言われ、同年のクリスマスに洗礼を受ける。代母は藤田春美さん。



洗礼名は、澄生さんと同様、アウシュヴィッツで殉教したテレサ・ベネディクタ に。



2022年6月、堅信式。



2021年春、澄生さん、病状悪化  
大きな手術を前に、小野幌カトリック  
教会で洗礼を受ける  
アウシュヴィッツで、家族のあるポー  
ランド人の身代わりになって死んだ  
神父、コルベ・マキシミリアーノ  
を洗礼名とする。  
2021年6月、手術前の澄生さんと  
野幌森林公園へ



### 「銀河通信」と樋口みな子さんの35年を振り返って……(小野有五)

35年、というのは人の一生にとって、まことに重要な年月である。その長い時間を、遊んで過ごすこともできるし、日々の暮らしに追われてしまう人もあろう。だが、みな子さんは、多忙な日常を送りながら、1988年に手書きの家族新聞として始めた「銀河通信」を、個人の発するミニコミ紙として、ほぼ毎月のように発行し続けた。その紙面は、自然と生きようとするみな子さん一家のさまざまな活動を伝えることに始まったが、次第に、環境保護、平和、反戦、反核を訴え、人権や先住民族の平等を強く求める内容に深化していった。35年間にわたるその活動を、前期(1988年~2002年)と後期(2003年~2023年)に分けて、年表にしてみたのが、p.3~4の見開きの図である。実際には、「銀河通信」の発刊に先立ち、1976年から、みな子さんは旭川で水銀汚染問題に関わり、高木仁三郎さんの反核養成講座に参加していた。この2つの活動への関わりが、その後のみな子さんと「銀河通信」をつくったともいえよう。前期は自然保護・環境保全に軸足が置かれ、1999年からは高山植物盗掘防止運動に関わり、日本山岳会に入って本格的な登山も始めた。後期は、2003年の知里幸恵さん生誕百周年記念事業をきっかけに、先住民族の権利回復、人権問題、ハンセン病問題に活動の範囲が広がった。2011年からは泊原発訴訟に原告として加わった。

後期での大きな出来事は、2014年のアウシュヴィッツ訪問である。そこで、家族のあるポーランド人の身代わりになって死んだコルベ神父の行為を知ったとき、みな子さんは、初めてカトリックというものにふれたようである。翌、2015年、親しかった友人が死に、カトリック教会での葬儀ミサに参加した時、仏教式の葬儀では得られなかった深い感動を受けたことも、1つのきっかけとなった。p.5に澄生さんの手記として載せたように、2020年、「銀河通信」の最初からよき協力者であった澄生さんのリュウマチが悪化、翌年には大手術を受けることになり、まず彼がカトリックの洗礼を受けた。キリスト教は、祈れば、信じれば、願いが叶うという「ご利益宗教」ではない。神は人智を超えた存在であり、人間の思いを超えた判断をする、だが、それはつねに神の愛の現れだ、というのがキリスト教の信仰である。人間は欲望そのものであり、願いが叶うように祈ることは、たんに欲望の延長にすぎない。それを捨て去るとき、平安(ニルヴァーナ：涅槃)が得られるとブッダは説き、イエスは、利己を捨て、神の愛に身をゆだねるとき、人は欲望の奴隷から解放され、本当の意味で自由になると教える。どちらもコインの表裏のようなことである。みな子さんも2021年に洗礼を受けた。唯物論的な思考をする人たちが多い「銀河通信」の読者には、意外に見えたかもしれない。だが、平等も自由も、人間を超えた存在を認めることで初めて得られる概念である。日本では、「天皇」を自分の側に立つ「神」としたい権力者が、それを脅かす「宗教」を排斥してきた。統一教会問題などで、ますます「宗教は怖い」と思う人が増えている今、「銀河通信」の読者の方々に、みな子さんがカトリックになったことの意味を知っていただきたいと考え、あえてカトリック・センターを、祝う会の場にした。もちろん、教会も寺院も、人間の組織である以上、過ちも多い。だがつねに、「人間を超えた存在」に目を向けてほしい、と思う。35年間をともに生きてきたみな子さんと澄生さんが、神さまの恵みと励ましを受けつつ、これからも一日一日をゆたかに生きていくことを願っている。

このささやかなお祝いの集いが、お二人にとっても、また私たちにとっても、新しい出発の時となりますように！



35周年、おめでとう!

# お祝いのメッセージ…到着順

皆さまからのメッセージにあります「『銀河通信』35周年、おめでとうございます」の言葉は紙面の都合上、割愛させていただきました。

いつも楽しみです。植村さんの裁判支援で、東京、九州、沖縄と植村さんの講演に同行したことも懐かし思い出されますね。これからも人生の旅の車窓からの風景を共に見せてください。  
札幌市 七尾 寿子

残念ながら欠席ですが、会の様子を後日、「通信」でお知らせください。「通信」を読みながら、会の趣旨である「生きることを考え直すひと時」を私も共有したいと思います。また、赤レンガテラスで定食を食べながら、お喋りしましょう。  
鎌倉市 太田 朋子

継続の力すばらしいです。今の時代の問題点をその解決の方向性まで示唆されていて、はっと思う事も多々あります。自然を守る活動、文化活動、特に映画の解説感想などとても教えて頂く事がたくさんあります。お体にお気を付けてこれからも発信よろしくお願ひ致します。  
札幌市 渡辺 妙子

鹿児島島の地で豊かな生活の在り方を追究しています。その大先輩としての銀河通信から学びまた、刺激を受けています。  
鹿児島市 田島 康弘

銀河通信35周年。本当に偉大な歩みだったと心から敬意を贈ります。まっすぐな心で社会の不正義を怒り、広く学び、読み、たくさんの映画を観て知らない世界を理解しようとする知性と行動力。そして何よりも率直な表現で伝え続けた銀河通信。市民としての心豊かな感性に私も世界を広げてもらっています。みな子さんの素朴な可愛い人柄が何より好きです。  
東京都調布市 松浦 幸子  
(NPO 法人クッキングハウス会代表)

35年すごいことです。  
札幌市 岩本 道治

今や電車やバスの中は老若男女スマホ。私はザックの中に銀河通信と大好きな小説家の本を入れて読んでいる。意外とほっとする一時だ。みな子さんには、いつも感心させられる。平和を願い、弱者の視点に立った個人新聞は人や社会のために役立つのならば、との強い意思の連続性。35年のたゆまない努力に乾杯！  
札幌市 仲俣 善雄

この度は「銀河通信」35周年おめでとうございます。長年のご発行、「情熱」と「義」の心がなければ続けることは叶わないはず。心から敬服しております。出版人の大先輩として、これからもその背中を追いかけて続けたいと思っております。  
札幌市 佐藤 優子

もう35年が経ってしまったんですね。35年もの長い間、発行を続けてこられたことに敬服します。25周年パーティーが昨日のこのようです。この日はコロナで自粛していた海外にいるため欠席させていただきます。イスタンブールから盛会を祈念しております。  
東京都 高柳 昌央

何事も、継続するというのは大変なことです。みな子さんの取組に敬意を表します。  
札幌市 川上 麻里江 (弁護士)

「継続は力なり！」のモデルのような活動、素敵ですね！昨年6月の杉並区長選で市民の力で当選した岸本聡子氏が書いた『地域主権という希望－欧州から杉並へ、恐れぬ自治体の挑戦』(大月書店、2023年1月16日発行、1,600円＋税)は、北海道の皆さんにも勇気を与えるのではと思いますので、一読ください。また、小野有五氏の『新しいアイヌ学』のすすめ－知里幸恵の夢をもとめて』(藤原書店) 2022年)は21世紀の北海道を考える上で重要だと感じていますので、是非、継続的な学習会で学び合い、そして、新たなアクションを起こしましょう！  
東京都 小林 汎

いつも銀河が届くのを楽しみに待っています。大変な中、目が覚めるような記事を書いて下さり、ありがとうございます。  
札幌市 戸谷 真智子

細く長く続けられてこられたことに感謝です。これからもよろしくお願ひいたします。  
東京都 野本 美香

手書き時代、パソコン時代、デジタル時代と時代の流れに乗って編集を続けてきた先取の感覚は周年毎に高まってきましたね。これからも楽しみにしています！  
札幌市 長谷川 雄助

35年のご苦勞、お察しいたします。おめでとうございます  
札幌市 石井一弘 石井美雪

私も映画も見ることがありますが、丁寧な説明に感心しています。またこの間はご主人の大きな病気もあり、みな子さんの行動力と努力に頭が下がります。みな子さんが銀河通信で述べているように病気があっても、障害があっても差別なく、だれもが安心して暮らせるように、これからも生き生きと発信を続けてください。  
江別市 但馬 桂子

今後の末長いご活躍をお祈り致します。  
札幌市 黒木 沙会子



最近、土日勤務の仕事を始めており欠席とさせていただきます。楽しい祝う会になることを祈っています。

札幌市 伊藤 泰弘

35周年本当にお疲れ様でした。(過去形ではなく現在進行形「お疲れさま」ですね)多方面の本と映画の貴重な紹介参考にさせていただきますが、そのご努力の凄さに驚くとともに、植村隆裁判支援の中心的事務活動などにも心からの敬意を表します。

私は今年秋、反核医師の会や長沼判決50周年記念集会などの準備や体調不良などもあり、会のお手伝いを何も出来ておりませんが、みな子さんの今後のご健勝を祈っています。

札幌市 福原 正和

人間の根本には必ず信心(信仰)がある。私も臨終正念を願うようになりました。あなたとは宗旨は違いますが真実の幸せを共に求めていきましょう。

札幌市 反橋 一夫

いつも楽しみにしております。拙著も紹介いただき、そこから新たな人たちとの交流も生まれています。どうぞこれからも、体調などに留意されて、通信を続けていってくださいね。応援しております。

大阪府堺市 堀 和恵

樋口さん、おめでとうございます

札幌市 菊地 和美

Haste not, Rest not. 新渡戸稲造がゲーテの言葉を英語で表現したもので、「急ぎ過ぎることはないが、完全に止まってはいけない」というような意味です。長く続けることがどれほど大変な事かは私にも良く分ります。それを成し遂げてきた樋口さんの努力と根気にはただただ頭が下がります。35周年誠におめでとうございます。

北広島市 リュミエール 池

大雪の山々を庭として散策し、札幌の街区をグランドとして駆け回る、樋口さんの底知れぬエネルギーの源は何だろうといつも不思議に思っています。「人生を誠実に生きたい」というひたむきさと、「人生は楽しまなくちゃ」という食欲さがエネルギー源なんだろうと、勝手に解釈していますが、皆さんの意見を「祝う会」で、ぜひ聞いてみたい。

札幌市 山本 伸夫

細く長く続けられてこられたことに感謝です。これからもよろしく願います。

東京都 野本 美香

樋口さんの姿を見ていると「継続は力なり」を、私達に教えてくれる「生き字引」そのもの(上手い言葉が見つからず)です。今はお互いに連れ合いを介護しながらの活動をしている共通点がありますが、樋口さんの足元にも及びません。これからもご自身のお身体ご自愛下さい♥そしてお連れ合いの健康をお祈りいたします。

札幌市 高松 修二

ポーランドから応援しています。  
オシフィエンチム 中谷 剛 (アウシュヴィッツ博物館ガイド)

樋口さんが、まだ、マスコミに大きく取り上げられる以前に、憲法24条の草案を書いたベアテ・シロタ・ゴードンさんや、日本の大きな環境問題の水俣病について「苦海浄土」を書かれた石牟礼道子など著名人に直接会って取材しているのが凄いことだと思います。

廃炉ニュースの編集に長年取り組まれていました。レーチェルカーソン北海道の会が発足する以前から、環境問題の水俣病に取り組まれており、2019年のレーチェルカーソン生誕記念集会上に講演をお願いしました。

札幌市 関根 達夫

「銀河通信」で大切な情報を送っていただきありがとうございます。これからも無理せず可能な範囲で長く続けてください。

札幌市 鈴木 澄江

出来ることを、あきらめずに、やり続けること・・・いつも銀河通信を読んでいて感じることです。こんな時代だからこそ、こうした手作りのメッセージが大切なのだと思います。遠く立川の地から応援しています。

東京都立川市 細田 伸昭

先ずは一息され、また次につなげて下さい。私も陰ながらの微力の応援団として精一杯「頑張っ！」の旗振りをしています。且つみな子さんがお会いした高木仁三郎さんが言う様に「今日は脱原発、反原発、そしてより平和で持続的な未来に向かっての心新たな誓いの日、スタートの楽しい日にして皆で楽しみましょう」ですね。

札幌市 高橋

35年間、銀河通信を発行し続けたことはギネスブックに登録するほどの快挙です。私のつたない「キューバの旅行記」と「男女平等教育に携わって」を銀河通信に掲載して頂き感謝しています。私は旭川市から教員生活をスタートしましたが、みな子さんも旭川に住んでいたことを知り親近感をおぼえました。みな子さんの第一印象は、廃炉をめざす会で活躍していたことです。昨年、1部の原告が地裁で勝利しましたが、この裁判はさらに長引くと思われる。泊原発が廃炉になるまで、闘い続けて行きたいと思っています。

岩見沢市 中川 洋子

野の花のように可愛らしくて健気で、芯の強い人です。35年間、一途にペンをとり、世の中の理不尽さに声を挙げ、弱い人に心を寄せ問題提起し続けました。映画と書物をもとに、愛を奏でてきました。おめでとうございます。これからも、力の限りひたむきにメッセージを送ってください。

札幌市 大場 幸子

みな子さんのメッセージにはいつも勇気をいただいています。声を上げることの大切さを実感いたします。しかもそれを35年間も続けてこられた。その努力に敬意を表し、同時にお礼を申し上げます

札幌市 芳賀 淳子 芳賀 孝郎 (日本山岳会)

35年間クオリティを維持し見識を深め発行し続けてこられたことに感嘆するばかりです。いち読者として心から感謝です。

札幌市 藤田 春美

正直な話、私はいつ何が切掛で『銀河通信』読者になったかよく覚えていない。だが、今は発行されると真っ先にカラーで印刷して楽しんで読んでいる。そしていつも樋口さんの「間口」の広さに驚いたり、感心したりしている。肝腎なことは、樋口さんがそれを借り物ではない自分の言葉で語られていること。実はこれが最も難しいことなのだ、それがまた、『銀河通信』の最大の魅力なのだ。

苫小牧市 津田 孝 (獅子吼老)

これまで、ずっとずっと美しい自然の中に、ちっぽけな人間が、なんて愚かな選択をしてきたのかを、ブッシーでなく、自然態で心に届くメッセージを送っていただき、ありがとうございました。これからもバックナンバーを開いて、新鮮な空気を吸いようにしながら、福井の地でできることをしていきます。

福井市 小野寺 恭子

いつもメルマガありがとうございます。参加できませんが盛会をお祈りいたします。

旭川市 北尾 妙

社会活動、映画鑑賞や豊富な読書と文化交流、自然を守るための登山など、その小柄なからだにみなぎるパワーにいつも敬服しています。みな子さんは人の2倍も時間を使っているような気がします。これから40周年に向けての継続したご活躍も期待していますが、時にはからだを休めて急がずゆっくりと進んでいってください。

札幌市 鈴木 ゆかり

35年間、たくさんの本物の情報を届けてくださったこと感謝します。日々の生活の中で目先のことばかりに囚われがちですが、銀河通信からの大切なメッセージに心動かされました。「夫の介護のことを書くのは躊躇される」という文面がありましたが、どうかありのままの不安なお気持ち、状況もお伝え下さい。何故なら、35年間の読者は結構高齢者です。自分事でもあるのです。

北広島市 新井 喜美

泊原発訴訟の原告仲間となり、1989年にマルコ出版から発行された「北電への手紙」に、互いの文が綴られているのを知りました。世話人会などでご一緒しつつ、主に原子力問題や組織運営に関する意見交換をする先輩として樋口さんを信頼しています。自然、映画、社会問題から話題を拾い、紙面に活かされるセンスのよさとお人柄の好さを羨望します。次号も愉しみ♪

釧路市 マシオン 恵美香

目の前のこと、今日1日のことに振り回される日常の中に、ふと届く樋口さんからの一通の通信。穏やかでと他者との慈しみがあふれる世の中になれば感じさせてくれるメッセージに、はっとしつつ、また一歩、昨日より今日がよくなればと、背中をそっと押していただいているような気がいつもしています。

利尻町 佐藤 雅彦

樋口さんは私たち札幌映画サークルの有力な会員であり、当サークルの会報誌「シネアスト」でも度々健筆を奮っていただいています。今年は当札幌映画サークルの結成60周年でもあります。今後も互いに切磋琢磨して行きたいと念じています。

札幌市 奥田 聡 (札幌映画サークル代表)

こんなに長く続けているとは本当にすごいことです。無理のない範囲でこれからも続けていただければと思います。

札幌市 平田 なぎさ

長い間の編集、発行、発送とお疲れ様でした。昨年は、カトリックの洗礼も受けられて信仰をお持ちになり豊かな日々をお過ごしでしょうか? いやいや、お連れ合い様の介護やお母さまの介護に走り回られているご様子を伺っています。どうぞ、ご自身のお体を第一になさり、読書、映画鑑賞、山歩きなどご趣味の時間も大切になさってください。これからも「銀河通信」を楽しみに待っています。

東京都 齊木 登茂子

「銀河通信」は、みな子さんの生きている姿そのもの。正義感と豊かな感性にあふれています。そしてふれずに35年。私は通信によってたくさんのことを教えていただきました。私とみな子さんは同い年。だから、一緒に頑張って生きていこうね、と思う。そして、疲れすぎないでね。無理をせずゆっくり長く続けてね、とも思う。

東京都 吉岡 しげ美 (音楽家・ピアノ弾き語り)

誠実で丁寧な通信をお一人で発行されてきたみな子さんに尊敬の念しかありません。本当に素晴らしいことです。紹介して下さる映画や本に共鳴することも多く勇気をもらいます。日常の風景や花々の写真からも溢れる愛をいただいています。真っ直ぐ生きることの大切さを教えて下さり、本当にありがとうございます。

埼玉県川口市 溝井 留美

地道な活動に敬意を表します。

東京都 高波 淳

職場で貰った創刊号からの愛読者です。友人に子の成長を伝える家族新聞としてスタート。そして退職後のみな子さんは目を見張るほどに領域を広げ、銀河通信はあなたが足を運んだ現場に私たちをいざないました。映画や読書に造詣を深め、あなたに鼓舞された場面が毎回あり。続けることへの勇気、孤独。厳しさに身を置いたあなたに思いを馳せます。沢山のエネルギーをありがとうございます!! 35年。おめでとう! 築いた財産はペンの力です。

札幌市 よしだ 雅子

みな子さんとの出会いは「大雪と石狩の自然を守る会」。ともに事務局員としてよく飲み、論議し行動しあった濃厚な日々。中でも心に残るのはユージンスミス写真展「水俣」の開催と深い学び。みな子実行委員長のもと数十名で毎週のように学習会を重ね、写真展はたくさんの人に見に来てもらえた。また彼女が編集していた会報は発信力抜群だった。その後共に子育てと仕事の忙しい日々、そんな中でも彼女は「銀河通信」を発行し、私はたくさんの元気をもらって来た。発行35周年、人生の半分以上の年月、なんとすごいことか。これからはゆっくりと発行を続けてほしい。

東京都 宮本 紀子

35年の活動は「地の塩」か、北極星のまたたきか。私たちの進む道をほんのりと照らしてくれている。

札幌市 仮屋 志郎

何ごとも継続するのは大変ですよ、よく頑張って来られました。  
札幌市 笹森 美帆

市民の立場からの文化発信、ジャーナリズムの大きな功績だと思います。樋口さんの言葉やメッセージはマスコミがともすれば気が付かない大切なことを深い意味を含んで届けてくれます。今後のさらなる飛躍をお祈りしています  
札幌市 山崎 裕侍

ご無沙汰しております。当日は取材もかねてお邪魔できれぱと思っております。どうぞ、よろしくお願いします。  
江別市 土門 寛治

私は銀河通信を知ってまだ日が浅いですが、楽しく読ませてもらっています。話題が幅広くとても勉強になります。またおすすりめされている本や映画も気になるものばかりです。これからも楽しみにしています。  
旭川市 駒井 美保

インターネット経由の“ねずみ色”の情報があふれる中、実際に主婦の目線で見えた自然や時事・本・映画などに関するストレート感覚で書かれた文章には、いつも“天然色”に似た温かみを感じています。35年の長期間休まずに執筆を欠かさなかった事に敬意を表します。介護をしながらの活動は大変かと思いますが、これからも無理のない範囲で続けてください。  
江別市 菊地 宏治 (ユウパニコザクラの会事務局)

“私の心の中では、「大雪と石狩の自然を守る会」の存在がしっかりと根を下ろしている”。1985年3月、編集長として8年間34回にわたって担当した会報のあとがきに、彼女はこのように記して十年間住んだ旭川を去った。会の設立間もないこの時期、彼女は驚くようなエネルギーを絞り出して自然保護の現場を飛び回り、仲間とともに笑い、怒り、悲しみ、苦しんだ。その替えがたい体験は、大きな世界となって今も銀河通信となって人々の心をつないでいる。暗いときほど星は美しい。  
旭川市 寺島一男(大雪と石狩の自然を守る会代表)

去年は「江別9条の会」主催の『松元ヒロ・ソロライブ』に駆け付けてくださり、先日は映画『テレビで会えない芸人』を観てくださったと・ありがとうございます。常に社会に目を向け、そして個人、個人を大切に活動を手助けして下さっている、みな子さまに感謝を込めて。  
東京都 松元 ヒロ

私は200号(2017年)少し前からの読者ですが、「市民によるジャーナルの一つ」と表現したことがありました。思いはより確かになっていきます。ウェブ上で誰もが記者なり、解説者なりになれる時代に、読者に向かって継続的に真摯に語りかける記事群は、「公開討論の場におけるリーダー」たる存在であると言い得、読者を「消費者と生産者が複合した存在」にさせる(あるジャーナリズムのテキストの表現)からです。  
札幌市 伊藤 誠一(弁護士)

伝えたいことがあるとき、樋口さんが伝えてくださる。ちまたにない情報を樋口さんがそっと届けてくださる。なかなかお礼を言えずにきてしまったけれど…。ありがとうございます！信念をもっての継続って大変だけれど、すごくやりがいのあることだと思います。  
勇払郡占冠村上トママ 市川 利美

情報入手の方法は新聞、TV、SNSなどさまざまある中で、精力的に人に会い、映画を見、本を読んで伝えてくれる友人の息づかいの感じられるこの通信は貴重です。自分の狭い日常を随分と広げてもらってます。ありがとうございます。  
札幌市 佐竹 政治

祝、継続への情熱に敬服いたします。ROMの不良読者も続けます。ご寛容の程を  
札幌市 中川 充

人はこれほど多くのことを継続して出来るものだろうか？という驚きを抱き、そして感嘆する。人物紹介に曰く『様々な市民活動を行い、沢山の本を読み、多くの映画を鑑賞し、山歩きで自然にひたる。その中から得た想いを「銀河通信」を介して35年間に亘り弛まず紹介してきた人』。柔らかな優しい笑顔が似合う「みな子さん」へ。この言葉しかありません。「銀河通信」35周年おめでとう！  
札幌市 小枝 正人(山のトイレを考える会)

銀河通信を楽しみに読んでいます。体調が芳しくなく残念ですが欠席します。  
登別市 合田 美津子

世の動き銀河便りがみつめたり  
札幌市 岡村 雄二(シネマー馬力)

素晴らしいですね。いつもお会いするのが楽しみです。  
札幌市 西島 順子

「銀河通信」を読むと、いつもアフガニスタンで亡くなられた中村哲氏の「一隅を照らす」という言葉を思い出します。いろいろ教えられることばかりで感謝しております。残念ながら、当日は高知で開かれる高校の最後の同窓会と日程が重なり、お祝いに駆け付けることができません。これからも「銀河通信」が続くことを期待しております。どうかお元気で過ごしてください。  
札幌市 先川 信一郎(ジャーナリスト)

今年も色々あって大変な中、通信を続けるのは生半可なことでは無いでしょう。夫さんが、庭の天体観測を楽しく活用する日が来ることを待ちわびています。いつも通信からFacebookからも元気をもらっています。イヤイライクレ〜m(\_)\_m  
札幌市 原田 公久枝

おめでとうございます。どうぞお元気で。  
小樽市 花崎 皋平



みな子さんやお仲間にお会いするのを楽しみに出かけます。それから初夏の北海道も。  
栃木県日光市 貞兼 綾子

私が事務局長を務める北海道反核医師・歯科医師の会もこの6月で34周年となりますが、核兵器を未だ無くせていないことに忸怩たる思いです。  
みなさんとは古くからの友人で、最近ではパートナーの療養の相談に乗っていました。人間の生命は有限ですが、平和な社会でその人らしくキラリと輝けるようこれからも力を尽くしていきます。  
札幌市 塩川 哲男

大文字のニュースに疲れた時、手作りの『銀河通信』を読みほっとします。社会の矛盾への確固とした姿勢と、北の自然や暮らしへの温かい眼差し。両者が混ぜ合わされて、筆者の人格が行間からにじみ出ているからです。  
『銀河通信』は地域に根ざし世界を凝視する個人ジャーナリズムのお手本です。今後も愛読させて下さい。  
東京都 水野 孝昭

多岐にわたる分野、草の根の市民運動を伝え、多様な映画と本のご案内、親しみ深いコメント満載の「銀河通信」を届けていただき、ありがとうございます。感謝申し上げます。「銀河はめぐり 星は消えても ひとつの想いは消えず流れる」と歌う、シンガーソングライター谷山浩子の『銀河通信』の歌詞と重なります。暗い夜空に、優しく光り輝く「銀河通信」。これからも大いに注目し、声援を送ります。  
札幌市 谷井 利明

この度は、おめでとうございませう。とても興味深い内容を、新たな世界に触れる思いで、拝読させていただいています。今後のさらなるご活躍とご多幸を心よりお祈りいたします。  
札幌市 日野間 尋子

このような通信を長年に渡って発行されていることが本当にすごいことだと思います。  
ご自身を労わりながら、お身体を大事にお過ごしください。本当におめでとうございませう。 札幌市 益子 美登里

若い学生だった頃、北海道に強い憧れの気持ちを抱き、貯金して旅をしました。年取った今、銀河通信を手にするたびにあの頃のことを思い出されます。あの憧れは多分自然の中にあつて自然と共に生きるということへの憧れであつたのかなと思うこの頃です。銀河通信は若いころの憧れを蘇らせてくれます。  
神奈川県大磯町 石川 旺

自然や山の草花を愛して来られると共に、ご病気のご家族を看ながらも、理不尽な力に対しては、市民運動をされ、何より一市民としてペンをとり立ち向かい、全国に発信をされて来られました。私の敬愛する鍵山秀三郎さんの「凡児徹底」を文字通り実践された素晴らしい「通信」、是非これからも続けてほしいです。  
鳥取県米子市 澤 耕司

35周年とは凄いい！ いつもセンス溢れる美しい誌面。1 ページ目の花の写真がいつも楽しみ。そして映画評が、映画ファンの私に、見るべき映画を示唆して下さい。初めて拝見したのは、札幌大通りにある裁判所で原発裁判の傍聴に参加した折、配っていたのをいただいたのです。何人かのスタッフで作成していただければと思っておりましたが、なんと樋口様お一人で！ 何かと大変な状況の中での作成、心から応援いたします。  
小樽市 高橋 明子 (猫の事務所九条の会)

しなやかに息長く創刊当初は、山と映画と文学を描く個人通信か、ぐらいい思っていました、多くの人の協力もあつて、どんどん内容豊かで面白い刊行物になってきました。もともと市民運動の豊かな担い手で平和と環境保護に尽力していた方、映画評論にも文芸批評にも筆の冴えを感じます。集団での編集でなく生身の家庭人がここまで歩みを続けて来たのは驚異的なこと  
旭川市 則末 尚大

充実した内容にいつも驚かされます。これからも読者の目を大いに楽しませて下さい。体には十分に気をつけて下さいね。  
札幌市 仁木 由起江

銀河35周年すごい！ さまざまな実動を伴う中身の濃さを皆んな知っていますし、自分の代わりに、と勝手に押し付けて走り回ってもらつたり、見に行き訊いて来てもらつている、私のような読者も多いことでしょう。5月20日は、参加します！  
北広島市 山口 理喜三

私も1984年から年6回発行の全障研道支部の会報編集に着手し、90年代に若手にバトンタッチしたのですが、3年前からカムバックしております。樋口さんのエネルギー、その原動力の由来を知りたいですね。おそらく、35周年を祝う会で語られることでしょう。道新の拙稿「魚眼図」もお読みいただいたとのこと光栄です。  
札幌市 二通 諭

平和、暮らし、文化、福祉、教育など私たちを取り巻く日々起きている様々な問題を正面から見すえ、簡潔にその問題の本質を示してくれる銀河通信。その多岐にわたる内容と発せられる言葉の深さにとても驚かされ、私にとっての新たな学びの内容と感じています。そこにはパワフルでエネルギーギッシュな行動と、差別や格差を強いる者へのつよい憤りが、そして人の尊厳と命へのやさしさが溢れていると思います。35年もの長さこれからへ、心からの感謝とエールを！  
東京都国立市 田中 雄二

私は脚が不自由なので出席できませんが、今後ともお元気で活躍なさるようお祈り申し上げます。  
東京都 近藤 緑

私は「銀河通信」200号を新聞記事で知り、読者になりました。すごい行動力と洞察力と文章力に圧倒されました。末長い活動を応援しています。  
江別市 藤田 トシ子

長年のご活躍に敬服しています。おめでとうございます。そして長年のご活躍に敬服しています。このような「通信」がますます必要になる今、一層のご活躍を祈っております。遠方にて参加できませんが、お祝いの気持ちだけでもお伝えしたいと思っています。 東京都 小黒 和子

私は同じくらいの期間、国家公務員として務めさせて頂いた後、数年前に引退して北海道に戻ってきました。なので35年間という昭和、平成、令和に至る期間が如何に長期で、さまざまな時代の困難を勇敢に乗り越えられて現在に至っていると想像します。樋口さんご本人の確固たる意思と、この通信の編集、発行のためにご協力してこられた、多くの方々のご支援による賜物、まさに「宝物」に相違ありません。お忙しい中、野幌で始めた英会話塾に通っておられ、コロナ感染症により打ちのめされた日本の今後のことも視野に入れて活動されています。 江列市 野田 亮二  
(元・在ムンバイ日本国総領事・元外交官)

「戦争か平和かの岐路に立つ年に」 35年は、人の35歳…スタートが20歳として35年後は55歳…。まだまだと言うか、さあこれからと言うか…？ しかも、(貴方が発信した言葉でしか知らない)苦楽を共にしてきた、素敵なパートナーの存在！ 沢山の人々を励まし、幸せにしてくれた…「銀河通信」…はこれからも読者の皆さんと、一緒に考え、一緒に創られていくことでしょ！ 札幌市 伊藤 功 (札幌映画サークル)

みな子さんの精力的な市民活動、山のぼりのお話や、読書や映画の感想批評など、いつも楽しく感心しながら読ませていただいています。これからも無理のない程度で、末永く続けられることを願っております。 札幌市 木村 玲子

いつも銀河通信楽しみに読ませていただいています。書評や映画の評は”私も読んでみよう”、“この映画観たいな”と思うものばかり。そして何より平和への希求と間違ったことへの正しい怒りは本当にそうだと共感することばかりです。これからも力強くなやかな発信力を応援したい気持ちでいっぱいです。 東京都 田村 陽子

銀河で紹介してくれた、私の知らないたくさんのお話や映画。おかげで興味がわいて、読んだ本、見た映画、いっぱいありますよ。ありがとうございます。みなさんは、不断の努力を日々普段からしている、「12条する」ひと。銀河のまたたきは、小さくても光ります。どうぞ無理をしないで、スローでも、小さな光でも、自分のこともご家族のことも大事になさりながら、銀河と一緒にゆっくりゆっくり時には休みながら、歩いていってくださいね。 石川県津幡町 水野 スウ

35周年ですか。すごいことやりましたね。お祝いの会はちょうど花の最盛期、多分行けないと思います。40周年、50周年は花の無い季節に願います。でも生きていない俺は。 札幌市 梅沢 俊 (植物写真家)

銀河通信、毎号心待ちにしています。忙しい中さまざまなアンテナを張り巡らし活動している姿はすばらしいですね。健康に留意し、この先も長く銀河通信を発行されてくれることを願っています。 江列市 亀田 法子

35歳という立派な成人ですね。本当にゆるくなかったと思います。是非祝う会へ出席させてください。 岩見沢市 菅原 三栄子

「継続は力なり」と言いますが大変な事です。一步一步少しずつ頑張ってください。AIの世界となり、SNSが活用されていますがGPSを活用しても山の事故が増加しています。自身の判断で行動し、その足跡を残すことが大切です。これからも静かに頑張ってください。(5月20日は私の結婚記念日でもあります) 札幌市 新妻 徹

35周年おめでとうございます。10年続けるだけでも大変なのに良く35年間頑張ってくれた。樋口さん、心から苦勞さんと言いたい。記事の内容もいろんな角度からとられ勉強させてもらっています。身体に気をつけて50年をめざして下さい。 札幌市 土本 武司

映画の会や講演会などできつと何度もお会いしていたはずなのに、銀河通信の読者としては日が浅い私です。通信を読ませて頂いた時に、みな子さんのお人柄、そして信念が伝わってきて、とても共感と感銘を覚えました。主婦であり、母であり、けして平坦な日々ばかりではない中、35年も続けてこられたことに尊敬の念を抱ばかりです。平和と自然を愛し、笑顔がとてもステキなみな子さんのご健康とご活躍をお祈りいたしております。 札幌市 永井 智子

長い時間、社会を育てるころざしご苦勞さまで。アイヌ民族のことも特集してください。よい祝でありますように。 札幌市 小川 早苗

長きに亘り、市民運動を通じ継続されてきたことに心から敬意を表したいと思います。私と樋口さんの銀河通信との出会いは、私が2020年に発行した上高地牧場から徳澤園への135年史「世紀を超えて」の拙著を上梓させていただいた時からだと思います。祝う会に参加したいという思いはありますが、その頃は上高地も開山してニリンソウの盛りで叶いそぐにありません。シーズンオフに北海道へ行けたらと思います。 長野県松本市 上條 敏昭

『銀河通信』は樋口さんの生涯をかけた仕事になりましたね。北海道のかけがえのない自然とその中にくらす人々のために、少しでも長く頑張ってください。 仙台市 柴崎 徹  
(日本山岳会宮城支部・自然保護委員長)

いつも読み応えのある深い記事いっぱい通信をありがとうございます。ご主人もみな子さんもお身体大切にお過ごしください。 江列市 鈴木 えり子

5年前、東京での「クッキングハウスパパラギコンサート」で樋口さんに再会して以来、購読させていただいています。「平和・人権・環境」問題を長く発信してきたことに深く敬意を表します。これからも、様々な発信を楽しみにしています。  
札幌市 鈴木 訓

(故)小野妙子さん、宮森多恵子さんからご紹介以来、読ませて頂いています。毎号、毎号、足を使って、頭を使っての記事内容に感服しています。映画、BOOK の紹介記事これからも楽しみにしております。出席できませんが、これからも元気で続けられますようにお祈りしています。  
札幌市 清水 俊子

コンサートイベントがあり欠席します。悪しからず。  
岐阜県郡上市 増田 康記

出会は「高山植物盗掘」問題からでした。今後も末永く発行してください。私も購読を続けます。  
札幌市 小池 修生

知ることの大切さとつながることの大切さを「銀河通信」から学んでいます。これからもずっとずっと楽しみにしています。  
札幌市 大井 恵子

私の文化人生の指針！「銀河通信 35 周年」というのはギネス級？！の大変なお仕事です。私も両親の金婚式を機に家族通信？なるものを出しましたが、精々年に 2-3 回。そして 10 年も続きませんでした。自分の都合ではなく、読者の身になって定期発行を続け、その中身もまたすごい。自然を相手にする多くの文章はやはりカラーでないと実感が湧きません。私は毎日雑用で走り回ってなかなかまとまって本を読む時間がありません。映画も然りです。銀河通信の「本」と「私の映画評」は別にコピーしてバスや地下鉄に乗った時に改めて読み返しています。一般紙の書評、映画評よりずっと良いです。あたかもその本を読んだ、その映画を見た気分になっています。私の文化人生の指針です。  
札幌市 増子 捷二

「銀河通信」35周年とは、スタートが20世紀、しかも昭和天皇の死去の時期、ということになりますね。戦時中を振り返り、真摯な反省の言葉を随分と目にした記憶があります。河野談話の時期でもありました。21世紀に入り、反省から生まれる希望を社会のレベルで感じることが希薄に思えます。その間、濃密な発信を続けてこられたことに敬服します。内容がどれほど深刻であれ、あの美しく優しいイラストがトップにあることに「通信」の精神を感じます。お連れ合いの闘病生活についても共有していただけて感謝します。「銀河通信」の生きた軌跡の大事な一部ですから。  
シカゴ市 ノーマ・フィールド

息子さんの成長も伝える家族新聞からスタートして、現在の多彩な内容の通信を続けてこられたことは本当に素晴らしいと思います。髪型も笑顔も正義感も20代の頃のままですね！  
横浜市 佐々木 睦子

みな子さん、「銀河通信」35周年を達成されて、本当にすごい事ですね。穏やかな笑顔のみなさんの内にある、人に対する優しさ、正義感に裏打ちされた強い変わらない信念と行動力、日々を発信、紹介していただき、本当にありがとうございます。私などは近頃、世の中の理不尽な現実を目をそむけたくなる事が多くなり、そんな時、みな子さんを思います。これからもどうぞご自愛も忘れず、お元気で発信してくださいね。  
様似町 久野 真紀子

みな子さん、35周年素晴らしいですね。あの内容をお一人で編集されて、35年！クッキングハウスと同じですね。  
東京都 甲野 恵美

樋口さんにはクッキングハウス30周年で初めてお会いし、以来、通信をお送りいただき大切な学びをたくさんいただいています。昨年は35周年でも会え、とても嬉しかったです。映画館にはとおくってなかなか足を運ぶことはできませんが、樋口さんの紹介文を読むだけでも楽しく、色々想像しています。どうかこれからもお元気で発信し続けていただけたら嬉しいです。  
新潟県関川村 今 美千代

(故)妙子さんから紹介していただき、沢山の本、映画、美しい写真、何よりも軽やかなフットワークで市民活動を行うエネルギーに感嘆し、尊敬を覚えました！一昨年はカリックの洗礼を受けられ、また新しいみな子さんの発信する銀河通信を楽しみにしております。「一隅を照らす」みな子さんは私の宝です。所用により欠席します  
札幌市 宮森 多恵子

今は沖縄本島やんばるにすみ、かつて環境省国立公園レンジャーとして西表、知床など全国を渡り歩いた30数年間、渡り歩いた自称「幸せな渡り鳥」の私は35年前、長崎県雲仙温泉に駐在していた。実に35年の長きにわたり内容豊富で楽しい銀河通信の発信に深い敬意を表します。童話作家で『兄は沖縄で死んだ』の著者の加藤多一さんの急逝を3月20日、札幌の友人が伝えてくれ驚愕した。私は数日前ご本人からのハガキには強い決意を感じた。小樽の窮屈すぎる高齢者施設は出る！看護師の娘は反対するが一度しかない多一の人生だから自由に生きる。そうしたら沖縄で長く暮らしたいと締めくくっていたのに全く残念でならない。私は今78才で毎朝のウォーキングなどで健康長寿で88才を目指しているが、銀河通信はぜひ、50周年を目指し発信をお願いしたい  
沖縄県今帰仁村 水野 隆夫

豪雪との闘いやお連れ合いの介護に大変な思いをされながらも、銀河通信を出し続けている樋口さんの精神力の強さに驚きながら、毎号を楽しませていただいています。継続は力といいますが、銀河通信は樋口さんの人生そのものなのでしょうね。  
これからも随伴させてください。  
東京都 宮崎 信恵



張玉龍 *Dragon Cha*

銀河通信

編集、發行人

.Ms. Higuchi Minako

銀河通信 發行 35 周年の慶びを申し上げます。

「環境と平和と人権を傳えて」の主旨に基づいて、貴女個人の編輯にて、連續 35 年來の社會變動に供ない、不特定多數の讀者に對し、政治/社會、及び地方で發生した事件等を取り上げ、並びに藝術/文學/映画等の解讀も取り入れ、「銀河通信」を發行して來られました、その間の(並ならずの)努力及び(人知らずの)苦勞が有りました事と推察致します。それ乗り越えて、今日に至りました、貴女の信念及び意力に最高の敬意を申し上げます。

貴女は短かい人生の中の、貴重なる歲月を「銀河通信」發行の為に盡いやして來られました、その功績は、偉大成る社會奉仕の貢獻であります、古い言葉で「これぞ 大和撫子」の精神が日本國の社會繁榮を支えてゐる「大黒柱」でありますと 私は敬服致して居ります!!

「銀河通信」支えてきました、愛讀者皆様は貴女の貴重なる無形「宝物」で有ります、そしてその良識有る皆様にも敬意を申し上げます。

銀河通信の愛讀者が益益増加する事を期待致して居ります。

拙筆乍ら お祝い迄で ...

臺北市 中華山岳協會 張玉龍 3023 03 31

P.S. 御主人様の病いが一日も早く回復出来る事をお祈り致します

葉の編集の最終段階になって、台湾の張<sup>チャン</sup>玉龍<sup>ユーロン</sup>さんからの祝いメッセージが届きましたので、それをそのままpdfで載せます。90 歳ながら、体力、知性を兼ね備えた素晴らしい方だそうです。張玉龍さんとみな子さんは、みな子さんが山岳会に入ってから付き合いです。2009 年、みな子さんが、台北市にハンセン病回復者の施設を訪ねる機会があり、初めてお目にかかり、元気に山登りされているお話を伺ったそうです。



「小さな花」の宿として★★

平和を伝えたい★★

感謝をこめて★★

1988年7月に創刊した「銀河通信」が、今年の7月で35年になりました。本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。2020年、夫が大きな病気になり、2022年5月から私は介護生活になり、ちょうど1年になる中での祝う会になりました。実行委員会のみなさまには大変ご尽力をいただきました。コロナがようやく収まりつつありますが、集まれない中で工夫しながら進めていただきました。厚く御礼もうしあげます。

200号は2017年3月に発行しています (<http://www13.plala.or.jp/minginga/>)。そこに、創刊した頃から200号までの軌跡を書きました。今回のお祝い会では、小野有五さんのインタビューに答える形で、創刊以来の35年を振り返りました。

「銀河通信」は、最初は両面コピーをしていましたが、読者の数が増えていくと、印刷機が必要になりました。今なら、ネットで綺麗な印刷ができますが、当時は仕事と家事で手いっぱいでした。A3まで印刷可能な印刷機を買い、自宅で印刷し製本。三つ折りの封入作業までを一人で行っていました。むしろ、印刷してからの作業が大変だった記憶があります。自宅印刷は安いと思いましたが、実際はトナー代が高くて長くは続きませんでした。

101号からは、年間6号分の印刷となりました。送料代を有料にさせていただいたので、その責任も生まれました。脱原発や平和問題、人権問題に取り組む市民運動を伝えると同時に、本や映画の紹介にも大きな紙面を割くようになり、今日に至っています。

何度も財政難になりました。「きっと面白くないからだ」と思い、何を書いてもいいかわからなくなったこともありました。

そんな時に金子みすゞの詩に出会いました。「土」にこんな一節があります。「ぶたれぬ土は ふまれぬ土は いらぬ土か。いえいえそれは 名のない草のおやどをするよ」「あなたはあなた、そのままがいいのよ」と言ってくれているようで、前に進む勇気をもたらえたのでした。

戦争前夜のような日本です。聖書のマタイ伝で、イエスは、「野の花を見よ、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった」と言っています。

武力よりも、野の花に心をよせる通信でありたいです。

2023年5月20日

樋口みな子